

第68回

東西四大学 合唱演奏会

2019 6.22 SAT

開場 14:30 開演 15:30

すみだトリフォニーホール 大ホール

ご挨拶

本日はお忙しい中、第68回東西四大学合唱演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。元号が令和へと変わり新しい時代を迎える中、今年も変わらず四大学が一堂に会し演奏会を開催できますことを大変うれしく思います。

「歌」という言葉の語源は、一説によると「訴える」から来ているといわれています。歌は神靈に自分の思いを訴え、実現させるための手段であったのです。今日では様々なジャンルの歌を聞くことができますが、その本質は昔から変わることはありません。本日はそんな歌に魅せられた東西四大学の男たちによる、皆様の心への「訴え」を感じていただけたら幸いです。

末筆となりましたが、演奏会を開催するにあたり、多大なるご指導、ご助力を賜りました諸先生方、諸先輩、関係者の皆様、そしてご来場いただきました皆様に深く御礼を申し上げます。

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団 第144代責任者 別府 洸太

本日はお忙しい中、第68回東西四大学合唱演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。今年もこうして東西四校が一同に会し、無事この日を迎えられたことを大変嬉しく思います。新元号を迎えての初の東西四大学合唱演奏会、これまでの歴史と伝統を築き上げてきた先輩方への敬意を胸に、新しい門出の第一歩として華々しく歌いあげます。

本日の同志社グリークラブのステージでは、時には熱く、時には泥臭く、そして時には繊細に皆様の心揺さぶる歌声をお届けいたします。我々同志社グリークラブの至上の命題である「聴衆と一体となった音楽」をご来場いただいた皆様にも感じていただけますよう全力を尽くす所存です。

最後になりますが、演奏会を開催するにあたり多大なるご指導、ご尽力を賜りました諸先生方、関係者の皆様、そしてご来場下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。

同志社グリークラブ 第115期幹事長 井出 輝

本日はご多用の中、第68回東西四大学合唱演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。今年も変わりなく東西四校が一同に会して歌い合えることを大変喜ばしく思います。東西四連の魅力は「演奏の優劣を超えた音楽」を出演者とお客様の全員で味わうことが出来るという点です。音楽自体に優劣はありませんが、その一方で、四校共に「歴史に残る音楽」を求めて長年しのぎを削ってきました。本日は、東西四校の「プライド」から滲み出る「熱量」を存分にお楽しみください。

関西学院グリークラブの演目である【Messe Solennelle】は、弊団にとって非常に大切な楽曲です。通常、ミサ曲は教会の典礼儀式で演奏されることを目的に作曲されますが、この楽曲は、舞台上「芸術作品」として鑑賞するために作られました。本日は、通常のミサ曲とは異なる「芸術作品」を、目と耳と心で感じていただければ幸いです。私事ではありますが、この楽曲は私の大叔父の書庫に眠っていたものを、1949年1月23日、弊団の第16回リサイタルで、私の祖父が指揮をした演奏が本邦初演となっており、私もこの楽曲を演奏することに特別な想いを持っております。譜面の音符を音として奏でるだけではなく、様々な人の想いが詰まったこの楽曲には、弊団でしか表現することができない世界観があります。関西学院グリークラブのクラブ mottoである「メンタルハーモニー」で夫々の想いを紡ぎ上げ、120年間変わらない「関学トーン」を皆様にお届けいたします。

末文となりましたが、演奏会を開催するにあたり、多大なご指導、ご助力を賜りました先生方、関係者の皆様、そしてご来場いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

関西学院グリークラブ 第120代部長 林 浩平

本日はお忙しい中、第68回東西四大学合唱演奏会に御来場いただき誠にありがとうございます。今年も四大学が一堂に会し、無事に演奏会を開催できることを心より感謝しております。今年度幹事校として、皆様のご期待以上の演奏をお届けできるよう団員一同全力を尽す所存です。令和最初となる今年の早稲田単独ステージでは、早稲田大学グリークラブと初共演となる清水敬一先生の指揮のもと、男声合唱とピアノのための組曲「天使のいる構図」を演奏いたします。新時代の幕開けにふさわしいステージをお楽しみください。

合同ステージにおきましても、慶應義塾、同志社、関西学院の同志たちと創り上げるダイナミックな演奏にぜひご期待くださいませ。

末筆ではございますが、演奏会を開催するにあたり多大なるご指導、ご尽力を賜りました諸先生方、関係者の皆様、そして御来場いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

早稲田大学グリークラブ 第112代部長 澤田 和希

The Big Four 68th Annual Concert

第68回 東西四大学合唱演奏会 プログラム

—— エール交歓 ——

第1 ステージ 慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団

男声合唱組曲『青い小径』（男声版委嘱初演）

■作詩：竹久夢二 ■作曲：森田花央里 ■指揮：雨森文也 ■ピアノ：平林知子

第2 ステージ 同志社グリークラブ

男声合唱とピアノのための組曲『回風歌』

■作詩：木島 始 ■作曲：松本 望 ■指揮：伊東恵司 ■ピアノ：水戸見弥子

◆ ——— INTERMISSION ——— ◆

第3 ステージ 関西学院グリークラブ

『Messe Solennelle』

■作曲：Albert Duhaupas ■指揮：広瀬康夫

第4 ステージ 早稲田大学グリークラブ

男声合唱とピアノのための組曲『天使のいる構図』

■作詩：谷川俊太郎 ■作曲：松本 望 ■指揮：清水敬一 ■ピアノ：小田裕之

◆ ——— INTERMISSION ——— ◆

第5 ステージ 四大学合同ステージ

男声合唱組曲『IN TERRA PAX 地に平和を』

■作詞：鶴見正夫 ■作曲・指揮：荻久保和明 ■ピアノ：中島 剛

エール交歓

慶應義塾塾歌

作詞: 富田 正文 作曲: 信時 潔

見よ
風に鳴るわが旗を
新潮寄するあかつきの
嵐の中にはためきて
文化の護りたからかに
貫き樹てし誇りあり
樹てんかな この旗を
強く雄々しく樹てんかな
あゝわが義塾
慶應 慶應 慶應

Doshisha College Song

作詞: W.M.Vories 作曲: Carl Wilhelm

One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify; one lofty aim;
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!

Still broader than our land of birth,
We've learned the oneness of our Earth;
Still higher than self-love we find
The love and service of mankind.
Dear Alma Mater, sons of thine
Would strive to live the life divine;
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha, and Brotherhood!

A Song for Kwansei

作詞:Edmund Blunden 作曲:山田 耕作 編曲:林 雄一郎

That we may both receive and give,
May live to learn, and learn to live,
Kwansei, we throng;
To you we throng, not first nor last,
Rejoicing in your fruitful past,
Through seasons clear or overcast
Still true and strong.

For us the present time is grace,
With thankful hearts we take our place,
Kwansei, our own;
And, each and all, will count these hours
Beneath your trees, beneath your towers,
One long succession of kind hours.
The sweetest known.

早稲田大学校歌

作詞:相馬 御風 作曲:東儀 鉄笛 編曲:山田 耕作

都の西北 早稲田の森に
聳ゆる薨は われらが母校
われらが日ごろの 抱負を知るや
進取の精神 学の独立
現世を忘れぬ 久遠の理想
かがやくわれらが 行手を見よや
わせだ わせだ わせだ わせだ
わせだ わせだ わせだ

あれ見よかしこの 常磐の森は
心のふるさと われらが母校
集り散じて 人は変れど
仰ぐは同じき 理想の光
いざ声そろへて 空もとどろに
われらが母校の 名をばたたへん
わせだ わせだ わせだ わせだ
わせだ わせだ わせだ

第1ステージ

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団

男声合唱組曲 『青い小径』(男声版委嘱初演)

■作 詩：竹久 夢二
■作 曲：森田花央里
■指 揮：雨森 文也
■ピアノ：平林 知子

■曲解説

竹久夢二は「青い小径」というタイトルについて、同名詩集の冒頭にこう記している。

「悩ましい春の日が過ぎ、青金の月が木の間がくれに忍びよる青い通ひ路に、とりおとした夢のかず／＼がこの小曲です。人は一度この小径をゆけば、もはや再び帰らないだらう。」

私たちは、一方通行の日々の中で常に青春を経験し、一つの青春を失うたびに一つの傷を負う。これは、消えない痛みである。この組曲は、過ぎ去ったものと残された者とを描いている。

ジャズの演奏には、ごく自然に不協和音程が存在する。そもそもジャズは、奴隷制から解放された黒人たちから生まれた音楽であり、彼らは酷い差別を受けながら、歓楽の街でそれを生み出した。故にその精神性はクラシックのものとは一線を画している。和音でいえば三和音ではなく四和音が基本であるし、2度、7度、9度の“ぶつかり”もそこかしこに存在する。ぶつかる「痛い」音を解決させることでカタルシスを得るクラシックとは異なり、ジャズはそのぶつかりを自然なものと捉える。ジャズは100年以上前から続く音楽であるが、時代が移ろい奏者が変わっても、その根底には共有される感覚がある。そして、ジャズピアニストである森田花央里が作曲するこの作品においても、ジャズの影響が色濃く表現されており、またピアノが重要な役割を果たしている。

1曲目の冒頭には、行く先もなく彷徨う心が右手の動きにより表されている。E-AとD-Gが繰り返し弾かれ、この4つの不協和音は、ペダルにより時間のずれの中で出会い、純粋な痛みを訴える。ピアノは次第に高まり、夢想していた美しい鐘の音を回顧する。そしてそれは合唱の独白を導く。2曲目冒頭の和音たちは、刹那的な転調を繰り返しながら、それぞれが少しの痛みを含んでいる。「消えゆくからよいのだ」と言わんばかりの熱狂した青春賛歌の影には、現実から目を逸らし、それでも現実を受け容れて生きたいという心が隠れている。3曲目は、幼少の頃の記憶が大人びたジャズピアノと共にフラッシュバックする。これは森田花央里の本領である。その場で作られるグルーヴをお楽しみ頂きたい。そして終曲は、ピアノが全ての思い出を回想させる。

この組曲は、人間の「成長」とも呼ぶべき変容を描いている。永遠を疑っていなかった子供の頃に別離の痛みを知った少年(あるいは少女)の心は、それに耐えかねてひしゃげてしまうだろう。何とか別離を肯定しようとするし、過去を「思い出」にしようとする。そこには、おとぎ話のように全てが救われるシナリオはない。そして、そうした巡り合わせの中で、彼は他者を愛する心の芽吹きを見る。この変容はそもそも望まれたものではないのかもしれない。また、これからも繰り返す別離の疼痛に、彼の心は元の形を失うかもしれない。人生は未だわからない。

私たちは皆、痛みを抱えて生きている。青春がまた巡り来るのを期待して。

(文責:山内 祥平)

□ 歌 詞

1. 鐘

鳴らない鐘の
あることを
知らずにゐた日
が
しやはせか
知つたこの日
が
しあはせか
引けども
鳴らぬ鐘ならば
いつそ
引かずに
おいたもの。

2. 花火

紺青のほのめく空に
ついでと花火はのぼる
いさぎよくちるや
らんぎく
やなぎ からまつ
かぎや たまや
「うつくしきものは
なべてはかなし」
水のほとりのかはたれに
柳をひきて
ひとの嘆かい。
※なげかうとして作曲

3. ゆびきり

指をむすびて
「マリアさま
ゆめく
うそはいひませぬ」
おさなききみは
かくいひて
涙うかべぬ
しみくと
雨は
ふたりのうへにふる
また
スノドロップの
花片に。

4. あなたの心

※楽譜内、作曲者によって挿入された言葉
「おん きりく ぎやく うん そわか」…聖天（ガネーシヤ）真言。
「あみりた」…阿弥陀如来のこと。
あなたの心は
鳥のやう
涯のしれない
青空を
ゆきてかへらぬ
鳥ならば
私の傍へ
おくために
銀の小籠に
入れませう。

第2ステージ

同志社グリークラブ

男声合唱とピアノのための組曲 『回風歌』

■作 詩：木島 始
■作 曲：松本 望
■指 揮：伊東 恵司
■ピアノ：水戸見弥子

■曲解説

「回風歌」という題名は、中国の詩人、李白の「古風その七」にある一句、「同風送天啓」から取られたものである。武部利男による和訳によると、「つむじ風が天上の音楽をおくる」という意味であるようだ。木島始の詩は強い政治意識を内在した言葉が特徴的とされている。この回風歌においては尋常ならざる人の世と対比して、それらを超えた自然的な象徴の形で「風」のイメージが繰り返し登場しており、「風」と人々の「声」のイメージの差が印象的である。

詩の冒頭に出てくる「モーノ・モンドン・レーガス」という言葉は、エスペラント語の諺で「金が世界を支配する」という意味（エスペラントの創始者ザメンホフによる）。エスペラントが平等な立場での国際理解を意図してつくられたものというエピソードが、より一層皮肉めいた印象を与えているようにも思われる。「この言葉の響きとリズムが組曲全体の色調を決定付けたように思う」とは作曲者の松本望の言である。

また曲中の詩の中には「つきぬけよう」「掘りおこそう」「あつめよう」といった、意志を持った呼びかけの単語があらわれる。それらに当てはめられた特徴的なリズム、そして「モーノ・モンドン・レーガス」の響きが、全曲を通しての主要なモチーフとして構成しているのである。

男声合唱とピアノのための組曲「回風歌」は、組曲が3つの曲から構成されている。

1.
遠くから聞こえてくるようなシュプレヒコールから始まるが、皮肉を込めた言葉を連ねるその後ろで、繰り返される「モーノ・モンドン・レーガス」のリズムが、常にこの曲を支配して進行していく。組曲を通じてのモチーフであるこの言葉を、特に印象付ける役割を果たしている。
2.
「ぼくら」が恐れる「闇」を象徴として、人々の声は埋もれているものとして描かれる。そのためエネルギーは内に秘められた印象を抱かせるが、闇の中で芽生える薔薇のイメージをきっかけに、秘めた熱量は一気に爆発を起こす。
3.
「とびちる声をあつめよう 嵐の空にぬいつけよう」という呼びかけのフレーズが繰り返し強調され、これまでの詩を受け必死に足掻いているように感じられる。この足掻くイメージが緩急が激しい展開の中で表現された後に、突如1曲目を再現して「モーノ・モンドン・レーガス」のシュプレヒコールがあらわれる。これにより、3曲目は組曲全体をまとめる役割を果たす。その後、足掻きの果てに見えた「ぼくら」の決意のあらわれとして、あつめよう、ぬいつけよう、嵐の空に、と高らかに歌い上げ、回風歌を締めくくる。

本日はご来場いただいたお客様に、つむじ風がおくる「天上の音楽」を感じていただければ幸いです。

□歌 詞

1

モーノ・モンドン・レーガス
 モーノ・モンドン・レーガス
 くりかえされる声をつきぬけよう
 ときめく支配者よ
 ひとの上に立ち
 うそぶくな
 おごりたかぶるな
 きみより高い空のはてに
 きみがいなくても日は昇る
 空に青さをひびきわたらせる
 つむじ風を巻きおこそう
 同じつばやきに閉じこもれば
 蛇にさえ さげすまれる
 モーノ・モンドン・レーガス
 モーノ・モンドン・レーガス
 くりかえされる声をつきぬけよう

2

埋もれる声を掘りおこそう
 けっして口を開かない人々の胸
 砂利にまじる火打石
 ともしびの外を闇がつつむ
 閉ざした扉のむこうがわに
 ふさいだ瞼の 奥底に
 闇はそだてる 開きかけのバラを
 闇がなければ 何ひとつ芽ばえない
 闇はぼくら 身を寄せるところ
 秘密かくすところ
 病いやすところ
 闇はまたたき輝かせるうしろだて
 闇を恐れてぼくらの仕事は始まらない
 埋もれる声を掘りおこそう

3

とびちる声をあつめよう
 嵐の空にぬいつけよう
 仕事みうしない 危なさ きざす
 土地をうばわれ 歯ざしり 呑みこむ
 生きがい掴めず 空しさ きわまる
 かれらのかわりに 風が舞う
 かれらのかわりに 砂がちる
 身をかがめよう
 うつろな内部に 点々と
 痛みが きりもみし
 渦巻く闇が はじけとび
 幻の馬が 走りだす
 その馬を いまぼくらの声で鞭うち
 その声の鞭が ぼくら自身の姿を
 嵐の空にうきたたすのだ
 消せない声と根づかせるのだ
 あつめよう とびちる声を
 ぬいつけよう まなざし高く
 ぼくらの声を
 青さ鳴りひびかせる嵐の空に

第3ステージ 関西学院グリークラブ

『Messe Solennelle』

■作曲：Albert Duhaupas
■指揮：広瀬 康夫

曲解説

この作品は、1949年の関西学院グリークラブによる日本での初演から今年で70周年を迎える。

MESSE SOLENNELLEについて

この作品は、フランスのアラス生まれのデュオパが作曲した数少ないミサ曲の一つである。19世紀半ばのフランスは当時、男声合唱運動であるオルフェオン活動が盛んであり、デュオパが率いるアラスの男声合唱団が1859年のパリのコンクールに出場しこの作品を演奏している。コンクールの審査委員長であったシャルル・グノーにこの「荘厳ミサ」について、「次世代でも歌い継がれることを確信している」と評された。しかし、海外での演奏はほとんど見られず、作曲者のデュオパが作曲したはずの他の曲についてもほとんど現存していないことから、「忘れられた作曲家による忘れられた作品」と言われている。

日本への伝播について

この曲が日本に伝わったのは、林雄一郎氏（指揮者であり、後の関西学院グリークラブ技術顧問）による楽譜の入手によるものであり、1948年、当時関西学院グリークラブの学生指揮者であった林慶治郎氏（林雄一郎氏の実弟）の指揮で、第15回関西学院グリークラブリサイタルで“Kyrie”が初演された。また同年10月には“Credo”も初演されている。その後、“Kyrie”は第1回 全日本合唱コンクールにおいて林慶治郎氏の指揮で自由曲として演奏され、優勝を果たした。これは、林雄一郎氏によってコンクールのためにデュオパの原調から1度下げたものであり、後に『グリークラブアルバム』にはこの版が掲載されることとなった。翌1949年の第16回 関西学院グリークラブリサイタルでは、日本初となる全曲演奏が行われた。その後は、1951年の第6回 関西合唱コンクールにて、日下部吉彦氏指揮の同志社グリークラブによって“Kyrie”が演奏されるなど、多くの男声合唱団がこの作品を演奏することとなり、日本の男声合唱史を語るうえで欠かせない重要なレパートリーのひとつとなった。

関西学院グリークラブではその後、80周年記念リサイタル、100周年記念リサイタルと20周年の節目ごとにこの作品を演奏している。2000年の関西学院グリークラブ100周年記念リサイタルにおいては“Kyrie”“Gloria”“Sanctus”“O Salutaris”“Agnus Dei”の5曲が北村協一氏の指揮により演奏され、翌2001年に残りの3曲を含めた全曲が録音され、世界初のデュオパの荘厳ミサのCDが完成した。2003年にはヨーロッパ演奏旅行で、デュオパがオルガニストを務めていたフランス・アラスの聖ニコラス教会で新月会と共に北村協一氏の指揮で演奏し、好評を博した。

ALBERT DUHAUPASについて

1832年にフランスのアラスに生まれる。幼少期より音楽を学んでおり、1849年にパリ音楽院に入学。1851年には故郷のアラスに戻り、1854年にはアラス男声合唱団（Orphéonistes d'Arras）の指揮者に就任。アラス男声合唱団はその後幾多の賞を獲得することとなる。1890年死去。

歌 詞

MESSE SOLENNELLE / Albert Duhaupas

1. KYRIE

Kyrie eleison. 主よ、憐れんでください。
Christe eleison. キリストよ、憐れんでください。
Kyrie eleison. 主よ、憐れんでください。

2. GLORIA

Gloria in excelsis Deo. 天のいと高きところでは神に栄光がありますように。
et in terra pax そして地上では、平和が
hominibus bonae voluntatis. 善意の人々にありますように。
Laudamus te, 私たちはあなたを賛美します、
Benedicimus te, あなたを賛美します、
Adoramus te, あなたに祈りを捧げます、
Glorificamus te. あなたに栄光がありますように。
Gratias agimus tibi 私たちはあなたに感謝をささげます、
propter magnam gloriam tuam. あなたの大きな栄光のゆえに。
Domine Deus, 神なる主よ、
Rex coelestis, 天の王よ、
Deus Pater omnipotens. 全能の父である神よ、
Domine Fili unigenite, 独り子である主よ、
Jesu Christe. イエス・キリストよ。
Domine Deus, 神なる主よ、
Agnus Dei, 神の小羊よ、
Filius Patris. 父の御子よ。
Qui tollis peccata mundi, 世の罪を取り除かれるお方よ、
miserere nobis. 私たちを憐れんでください。
Qui tollis peccata mundi, 世の罪を取り除かれるお方よ、
suscipe deprecationem nostram. 私たちの願いを受け入れてください。
Qui sedes ad dextram Patris, 父の右に座すお方よ、
miserere nobis. 私たちを憐れんでください。
Quoniam tu solus Sanctus なぜならば、あなたのみが聖、
Tu solus Dominus, あなたのみが主、
Tu solus Altissimus, あなたのみがいと高き方であるからです、
Jesu Christe. イエス・キリストよ。
cum sancto Spiritu あなたは聖霊とともに、
in gloria Dei Patris, 父なる神の栄光のうちにあられます。
Amen. アーメン。

3. CREDO

Credo in unum Deum, 私は信じます、唯一である神を、
Patrem omnipotentem, 全能の父を、
factorem coeli et terrae, 天と地の創り主を、
visibilium omnium et invisibilium. すべての目に見えるものと見えぬものの創り主を。
Et in unum Dominum そして（信じます）、唯一である主を、
Jesum Christum, イエス・キリストを、
Filium Dei unigenitum, 神の独り子を、
Et ex Patre natum, 父からお生まれになり
ante omnia saecula, 世々に先だった方を。
Deum de Deo, 神からの神、
lumen de lumine, 光からの光、
Deum verum de Deo vero, まことの神からのまことの神、
Genitum, non factum, 生まれたが創られたのでなく、
consubstantialem Patri: 父と本質を共有し、
per quem omnia facta sunt. 万物がそのゆえに創られた方を。
Qui propter nos homines この方は、私たち人間のために、
et propter nostram salutem, また私たちの救いのために、
descendit de coelis. 天から下られました。
Et incarnatus est. そして肉体を受け、

de Spiritu sancto
ex Maria Virgine:
et homo factus est.
Crucifixus etiam pro nobis
sub Pontio Pilato
passus et sepultus est.
Et resurrexit tertia Die,
secundum Scripturas.
Et ascendit in coelum:
Sedet ad dexteram Patris.
Et iterum venturus est cum gloria,
judicare vivos et mortuos:
cujus regni non erit finis.
Et in Spiritum sanctum
Dominum et vivificantem:
Qui ex Patre Filioque procedit,
Qui cum Patre et Filio
simul adoratur,
et conglorificatur:
qui locutus est per Prophetas.
Et unam sanctam
Catholicam et Apostolicam Ecclesiam.
Confiteor unum Baptisma
in remissionem peccatorum.
Et expecto
resurrectionem mortuorum.
Et vitam venturi saeculi,
Amen.

4. SANCTUS

Sanctus, Sanctus, Sanctus,
Dominus Deus sabaoth.
Pleni sunt coeli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.
Benedictus qui venit
in nomine Domini.
Hosanna in excelsis.

聖霊によって
処女マリアから。
そして人と成られました。
さらに私たちのために十字架につけられました、
ポンテオ・ピラトのもとで。
苦しみを受け、埋葬されました。
そして三日目によりがえられました、
聖団にある通りに。
そして天に上り、
父の右に座されました。
そして栄光に満ちてふたたび到来し、
生者と死者を裁かれるでしょう。
その統治は、終わることがないでしょう。
そして（信じます）、聖霊を、
主にして生命を与える者を。
それは父と子から発し、
父と子と
変わりなく拝せられ、
栄光を共にします。
それは預言者たちによって語られたもの。
そして（信じます）、ひとつの聖なる
普遍的な、使徒伝来の教会を。
唯一である洗礼への信仰を告白します、
それは罪の許しを得させるもの。
そして待ち望みます、
死者の復活を、
来るべき世の命を。
アーメン。

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の神なる主は。
天と地はあなたの栄光に満ちています。
いと高きところにホサナ。
祝福されますように、
主の名においていらっしゃる方が。
いと高きところにホサナ。

5. O SALUTARIS

O salutaris Hostia,
quae coeli pandis ostium:
Bella premunt hostilia,
Da robur, fer auxilium.
Amen.

ああ、救いのいけにえ、
天国の門を開きたもうおん方よ、
われらの敵は四方から押し寄せる、
われらに力と助けを与えたまえ。
アーメン

6. AGNUS DEI

Agnus Dei,
qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.
dona nobis pacem.

神の小羊よ、
世の罪を取り除いてくださるお方よ。
私たちを憐れんでください。
私たちに平和を与えてください。

第4ステージ

早稲田大学グリークラブ

男声合唱とピアノの
ための組曲

『天使のいる構図』

■作 詩：谷川俊太郎
■作 曲：松本 望
■指 揮：清水 敬一
■ピアノ：小田 裕之

□ 曲解説

男声合唱とピアノのための組曲《天使のいる構図》は、2009年8月、「The Premiere vol.1～真夏のオール新作コンサート～」に於いて、指揮・伊東恵司さん、ピアノ・平林知子さん、合唱・なにわコラリアーズの皆さんによって初演されました。カワイ出版が、新しい合唱作品を生み出す企画で、初演の演奏会と同時に楽譜が出版される意欲的な催しです。現在までに4回行われているコンサートの記念すべき第1回でした。

松本望さんの最初の男声合唱曲で、テキストは谷川俊太郎の『クレアの天使』から選ばれています。内容によって選り分け“再構築（recomposition）”した詩の世界を、5曲の連なりによる大きなドラマで表現することが意図されています。そこではそれぞれの曲の音楽のスタイルを考え、組曲が構成（composition）されています。タイトルで使われている『構図』は、この“composition”に由来するとのこと。松本さんは「『組曲』として複数曲をまとめ上げること」に意義を見出すことをテーマにしているそうですが、それに沿って作曲上の実験を繰り返しているそうです。そのテーマ（組曲全体としての構成観）を明確に意識して作曲した最初の作品がこの《天使のいる構図》です。

1曲目のモチーフが5曲目に帰ってくる循環形式を外枠にし、その中にジャズ風、ポピュラー風に至るまで、多様な音楽がコラージュのように現れます。自身が優れたピアニストである松本さんのお書きになるピアノパートには、彼女の個性が刻印されていて、だからこそ無伴奏で歌われる4曲目の印象が深まることも、見事な「構成」と言えるでしょう。

松本さんがパリ音楽院に留学中に書かれたこの作品は、《三つの抒情》（三善晃作品）、《花》（新実徳英作曲）、《幼年連禱》第1曲、《新しい歌》（信長貴富作曲）が生まれた時の作曲者の年代と、同じ年代に松本さんがなられた時に書かれました。作曲から10年を経て、松本さんの記念碑的作品としてますます輝きを増しています。

（清水 敬一）

歌 詞

I. Prelude

なにがてんしからのおくりものか
それをみわけることができるだろうか

はなでもなくほしでもなく
おかしでもほがらかなところもなく

〈それはたぶん
このわたしたちじしん……〉

(天使とプレゼント)

II. Capriccio

なんでもしってるおとななのか
むじやきなことなのか

つばさはどうだらけで

きのうモーツァルトのソナタの
すみっこにいた

きょうゆうやけくものうえに
ちよこんとこしかけていた

おんなでもおとこでもないにおい
としおいたきのねんりにまぎれ

こいぬのひとみにひそめ

かくれんぼしていた
あてんし

(天使というよりむしろ猫)

このよのなかのほかにもうひとつ
べつのよのなかがあった

そこからてんしはきた

なんまんねんもかかってとほとほと
おかげですっかりやせこけた

ほそいほそいせんにまで

つばさはにんげんからのおくりもの
しかたなくてんしはとび

かけるうみだけに

ようごびのかすかなあかりをもとめて

(天使の危機一髪)

III. Tempestoso

かみさま……とよびかけて
ひとをあじした

きこえてきたのは
そのさけび

くものささやき
ひとびとのこえにならめつぶやき
それだけ

〈みにくいてんしが
つばさをばたばたさせて

ビルのあいだをぶきようにとびまわり〉

あいされたものは
あいするもののあいをうたがい
びじゅつかんは

かみのすがたであふれていた

(醜い天使)

ほほえみでつたえることができるとおもった
だまっていたも

それができないとして
なぐった

なんどもなんども

いいわるいはしらない

あしのしたにたんぼのはな
あたまのうえになにがあったのか

したにあるものをふみにじり
うえにあるものにあげられて

いいわるいはしらない

てんしはいつだつてめをそらした

(用心深い天使)

かごめかごめのわのなかに
てんしがいた

おとなになつておもいだしたとき
もつてんしはいなかった

どこにも

いのりたかった
だれにむかって?

あいしたかった
どうやって?

なづけることのできないところにも
もみくちゃにされ

だれがすきか
なにがきらいかも
わからなくなるとき
あくまがやってきた
ほほえんで

(幼稚園の天使)

IV. Intermezzo

のほらにもうみべにも
まちかどにもへやのなかにも
すきなものがあつて

でもしぬほどすきなものは
どこにもなくて

よるをてんしとねむった

やまにだかれたかった
そらにとけたかった

すなにしこまれたかった
ひとのかたちをすてて

はだかのいのちのながれにそって

(希望に満ちた天使)

ほんのいつしゅん
てんしになったことがあつた

ひとはみなせをむけて
どこかとおくへいつてしまった

たぶんふかいもりのなかへ

てんしにたよらずにかんがえるために

みみにしたいメロディだけが

ゆうぞらにただよっていた
つかのまのやすらぎ……

そしてしぬひがきた

(老いた音楽家が天使のふりをする)

V. Finale

ほんとうにかきたかったものは
けつしてこぼにできなかつたもの

すずをつけたてんしにくすぐられて
あかんぼがわらう
かぜにあたまをなでられて

はながつなずく

どこまであるきつづけければよかったのか
しんだあとがうまれるまえと
まあるくわになつてつながっている

もうだまっていたもい

いくらあつても

どんなにうたつても
さびしさはきえなかつたけれど

ようごびもまたきえさりはしなかった
(鈴をつけた天使)

わたしにはみえないものを
てんしがみでくれる
わたしにはさわれないところに
てんしはさわってくれる

わたしのころにこみがたまつて
でもそこにもてんしがかくれて
つばさをたんで

わたしのころがはばたくとき
それはてんしがつばさをひろげるとき

わたしがみえますとき
それはてんしがだれかのなきこえにきこくとき
わたしよりさきに

わたしにもみえないわたしのてんし
いつかだれかがみつつけてくれるだろうか

(天使、まだ手探りしている)

なにがてんしからのおくりものか
それをみわけることができるだろうか

〈はなでもなくほしでもなく
おかしでもほがらかなところでもなく〉

それはたぶん
このわたしたちじしん……

(天使とプレゼント)

〈内は付曲されていません。〉

第5ステージ 四大学合同ステージ

男声合唱組曲 『IN TERRA PAX
地に平和を』

■作 詞：鶴見 正夫
■作曲・指揮：荻久保和明
■ピアノ：中島 剛

■作詞者解説

詩人、児童文学作家。新潟県出身。早稲田大学政経学部卒業。
大学在学時の1945年滋賀海軍航空隊に入隊し、敗戦後復学。
1951年、毎日新聞社の童謡コンクールに1位入選、文部大臣奨励賞を受賞。
代表作は「日本海の詩」、「鮭のくる川」など。1991年に童謡に関する業績から第3回サトウハチロー賞を受賞した。

■作品解説

組曲「IN TERRA PAX 地に平和を」は、1990年に混声合唱団コール・フロイントによって混声合唱組曲として委嘱・初演され、男声版は淀川工業高等学校グリークラブによって1993年に委嘱・初演された。この作品は、ベトナム戦争時に書かれた鶴見正夫の詩作品「太郎は知った」に合唱曲として曲をつけたことがきっかけで、その曲をベースとして、戦争と平和をテーマとした詩が新たに書き下ろされて作られた合唱組曲である。4曲目の「ほうけた母の子守歌」までは、戦争による惨禍や苦悩を描き出しているのに対して、終曲「IN TERRA PAX 地に平和を」では雰囲気が変わり、地球に生きとし生けるもの全ての命の平和を願う、祈りと希望を込めた曲になっている。

■曲目解説

知った

ベトナム戦争を受けて鶴見正夫が書いた詩「太郎は知った」をもとに作曲された。戦争を知らない太郎が、一枚の写真を見て戦争の恐ろしさやむごたらしさを知る構成になっている。そして、火を吹く銃によって倒れる少年がいるベトナムと日本の空が続いていることを知り、終わる。

OH MY SOLDIER

親よりも先に死んでいく若者、戦争で死んだ全ての若者へのレクイエム。
母よりも先に死んでしまった若者の、もう一度平和な国で生きたいという思いが伝わる曲である。

花をさがす少女

一輪の花をさがす少女の命を、一瞬にして奪い去った戦争の残酷さを書いた曲。少女はブーゲンビレアの花を探し、白いチョウも、何かを探してさまよっている姿が書かれている。

ほうけた母の子守歌

子供を失い、ほうけてしまった母の子守歌。繰り返される「ねんねこねなさい はよねなさい」という子守歌の間に戦争の悲惨な記憶が挿入されている。

IN TERRA PAX

これまでの4曲とは雰囲気が変わって、平和への祈りと希望が込められた曲である。タイトルはミサ曲「Gloria」の一文に記されている「Et in terra pax hominibus bonae voluntatis（そして、地上の人々に平和を）」による。

□歌 詞

知った
太郎は
戦争を知らない
その恐ろしさを知らない
むごたらしさを知らない
だから戦争へのにくしみも知らない
それは父や祖母の知る
遠いむかしのものがたり
そんな太郎が戦争を知った
一枚の写真を見て

少年は
はだしのまま
ぼろをまとい
どろにまみれ
うでから血をしたたらせ
父をうばわれ
母をころされ
家をやかれ
ひとり残され
ベトナムの土に立つ
目には涙ではなく怒りがあふれ
口もとから聞こえるのは無言のさけび

父をかえせ
母をかえせ
家をかえせ
土をかえせ
祖国をかえせ
おまえはおまえの国へかえれ！
しゅん間！
太郎はまぼろしを見た

火をふく銃
もんどりうって
ベトナムの土にたおれる少年
よせ！
やめろ！

その時
太郎は知った
戦争を

真夏の太陽にきらめいて
南へ飛ぶジェット機
あっ！
太郎は気づいた
ベトナムの空は日本の空に
つづいているんだ

OH MY SOLDIER

空よ
はてしない空よ
風のなかから聞こえてくる
あれは 誰の声
誰も知らない 若者の声

ゴメンナサイ
オカアサン
ホシイ

イノチガ
モウヒトツ
イキタイ
センソウノ
ナイクニデ
モウイチド
コノイノチデ

OH MY SOLDIER
かえらぬ生命
OH MY SOLDIER
言葉だけがかえる

空よ
かわらない空よ
風のなかから 言葉がかえる
OH MY SOLDIER. かえらぬ生命
OH MY SOLDIER.
OH MY SOLDIER.

ゴメンナサイ オカアサン
モウヒトツ イノチガホシイ

花をさがす少女

花をさがす少女
あの花は
どこへいったの

やさしかった時はやぶれ
ここは戦場 修羅のちまた
泥にまみれた 少女ひとり
さまよい歩く

日にかがやいた 緑の大樹
まぶしくさいた ブーケンビレア
あの花を さがして

ここは戦場 修羅のちまた
木もなく 草もなく 花もない
かなしみこらえた 少女ひとり
さまよい歩く

一瞬
飛び散る
少女は
いない

どこから生まれたのか
白いチョウが飛ぶ
ひらひらと はさはさと
いのちをさらす白いチョウよ
何をさがして さまようのか

花をさがす少女
あの花は
どこへいったの

ほうけた母の子守歌
ねんねこねなさい
はよねなさい
木枯らし吹けば雪がくる
まっかに燃えた雪がくる

ねんねこねなさい
はよねなさい
雪が燃えたら鬼がくる
いのち連れてく鬼がくる

ヒュルリー
ヒュルリー
木枯らし吹けばくり返す
ほうけた母の子守歌

ねんねこねなさい
はよねなさい
木枯らし吹けば雪がくる
雪が燃えたら鬼がくる

ヒュルリー
ヒュルリー
きえた子どもにくり返す
ほうけた母の子守歌

ねんねこねなさい
はよねなさい

IN TERRA PAX 地に平和を

IN TERRA PAX
地球に愛を
ぼくらに夢を
さあ 野辺に出よう
ならんで腹ばいになり
もえでたばかりの草にむせて
大地に胸をあてるのだ

とくとくと
見えない地の底からひびく
不思議なリズム
地球の鼓動だ
この大地のリズムにあわせ
人は生きる
鳥も木も草も

IN TERRA PAX
地球に愛を
ぼくらに夢を
さあ 空を見よう
陽の光をほほにうけとめて
新しい風に向い
目を開くのだ

さわさわと
はてしない青い世界をただよう
やさしいメロディ
地球の息吹だ
この宇宙のメロディにつつまれ
人は生きる
鳥も木も草も



□ 指揮者 雨森 文也 (慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団)

1959年生まれ。指揮法を黒岩英臣、ピアノを立川のぶみの各氏に師事。CANTUS ANIMAEなど、11団体の音楽監督を務める。全日本合唱コンクール全国大会で通算40度の金賞を受賞。2002年世界合唱オリンピックに於いて指揮者賞を、2008年にはアレツツォ国際ポリフォニーコンテスト(イタリア)に於いて最優秀指揮者賞を受賞。近時は、オーケストラとの学校公演などの指揮者としても活動している。



□ 指揮者 伊東 恵司 (同志社グリークラブ)

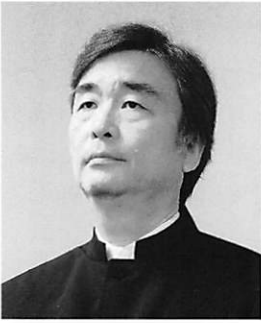
児童・混声・女声・男声...あらゆる形式・ジャンルの合唱指導を行い、全日本合唱コンクール・宝塚国際室内合唱コンクール等でグランプリ、金賞、特別賞を多数受賞。世界合唱シンポジウムでは2度にわたり(ソウル・バルセロナ)特別招待演奏団体(「なにわコリアーズ」「Ensemble Vine」)に選出される等、海外公演も多数。現在は、全国各所で講習会講師や審査員を務めるだけでなく「アルティ声楽アンサンブルフェスティバル(京都)」「コーラスめっせ(大阪)」の主催や「小中高の音楽教師向け講習会」の企画等、合唱の広がりを目指した活動に力を注いでいる。日本合唱指揮者協会理事。カワイ出版より「スチューデントソングブック(1・2)」「合唱エクササイズ(育成編・運営編・日本語編)」他、ブレーン株式会社より「合唱のイントロダクション」を上梓。また、「みなづきみのり」のペンネームで作詞活動を展開。「合唱物語」という形態の構成も含めて、松下耕、千原英喜、信長貴富、相澤直人...等、多数の作曲家により合唱曲が作られている。



□ 指揮者 広瀬 康夫 (関西学院グリークラブ)

神戸市出身。関西学院大学経済学部を卒業、グリークラブでは学生指揮者を務める。1987年より関西学院に勤務し、グリークラブはじめ多くの合唱団の指導に当たるとともに、全日本合唱連盟等の講師、審査員を務める。1999年BHS(Barbershop Harmony Society)に登録し、日本でのバーバーショップハーモニーの普及に努める。指揮以外にカルテットやソリストとして歌唱活動も行う。

故北村協一氏に指揮法を、大久保昭男氏、井上和世氏に声楽を、Egisto Matteucci氏に教会音楽及び合唱指導法を師事。現在、関西学院グリークラブ技術顧問・指揮者、新月会副会長・指揮者、コール・セコインデ常任指揮者、金沢メンネルコール客演指揮者、グリークラブ香川技術顧問、九州フレッシュメンコア・テクニカルアドバイザー、男声合唱協会JAMCA個人会員、BHS(本部アメリカ)会員。



□ 指揮者 **清水 敬一** （早稲田大学グリークラブ）

1959年5月東京生まれ。1982年3月早稲田大学理工学部電気工学科卒業。指揮法を遠藤雅古、V.Feldbrill、合唱指揮を関屋晋の各氏に師事。現在およそ20の合唱団の指揮に任される。管弦楽と合唱のための作品のコーラスマスターを務め、初演した作品も数多い。世界合唱シンポジウムに於いて講師を務める。国内外の音楽祭・作曲コンクール・合唱コンクールの審査員を歴任。

著者に「合唱指導テクニック」（NHK出版）、「合唱指揮という生き方」（アルテスパブリッシング）。

月刊『教育音楽』（音楽之友社）誌上で《折々の美景》連載。

現在、全日本合唱連盟およびJDCA日本合唱指揮者協会理事、東京芸術大学音楽学部ソルフェージュ科および同大学附属音楽高等学校講師。



□ 指揮者 **荻久保和明** （四大学合同ステージ）

東京芸術大学、同大学院作曲研究科修了。第45回毎日・NHK 音楽コンクール作曲部門第1位。作曲を島岡譲、矢代秋雄、野田暉行、間宮芳生の各氏に師事。昭和53年度文化庁芸術参加作品として委嘱された混声合唱曲「季節へのまなざし」で高い評価を受ける。宗左近の詩による合唱曲「縄文」シリーズはじめ、「IN TERRA PAX」など多くの優れた作曲がある。校歌の作品多数。合唱指導の分野でも第43回東京六大学合唱連盟定期演奏会の6校合同演奏会で自作の男声合唱組曲「縄文・"愛"」を指揮するなど、多くの合唱団の客演指揮者として活躍。的確な合唱指導で高い評価を得ている。教育活動でも多くの優秀な門下生を輩出するなど、現代我が国の合唱界を代表する作曲家兼指揮者である。東邦音楽大学特任教授。



□ピアニスト 平林 知子 (慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団)

京都市立堀川高校音楽科(現・京都市立京都堀川音楽高校)を経て、京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専攻を卒業。ピアノソロをはじめ、ピアノデュオや声楽・弦・管・打楽器とのアンサンブルで多数の演奏会、コンクール、講習会等に出演。またFM放送やCD録音に参加、新作初演にも多く関わっている。とりわけ合唱との共演においては、現在関西を拠点に、東京、静岡、長野、愛知、岐阜などで常任ピアニストをつとめる他、各地で精力的な活動を展開している。



□ピアニスト 水戸見弥子 (同志社グリークラブ)

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。同アンサンブル・ディプロマコース修了。
 瀧上千里、三浦みどり、G.山根美代子の各氏に師事。F.W.シュヌーア、W.リーガー、K.リヒターの各氏にも教えを受ける。
 東京・春・音楽祭での「パルジファル」「タンホイザー」、都響「第九」「イワン雷帝」等の音楽スタッフを務め、文化庁「本物の舞台体験事業」では、ピアニストとして参加。
 1999年、ヨーロッパで活躍するN.J.ジヴコヴィッチ作曲「Die Arten des Wassers」(水の種類)の日本初演後は、邦人作品の初演も多く、現在は、声楽、合唱、室内楽をはじめとするコンサートやレコーディングを中心に、海外公演にも同行するなど、国内外で活発に演奏活動を行っている。



□ピアニスト 小田 裕之 (早稲田大学グリークラブ)

「地に足のついた」趣を与える確かな音楽性(レコード芸術)「深い精神と心に訴えかける温かさ〜ベートヴェンを弾く」(音楽ジャーナリスト・藤巻暢子)
 1975年札幌生まれ。1998年桐朋学園大学ピアノ科首席卒業、NTTdocomo 奨学金。大学卒業後「プラハ芸術アカデミー」にて研鑽を積んだ。国際マルティヌー協会会員、日本ショパン協会正会員。2014年度ピティナ特別指導者賞受賞。2019年音楽現代3月号に於いては「邦人"昇龍"ピアニスト12人を推す(著:浅岡弘和)」に紹介された。現在、日本ピアノ教育連盟関東甲信越支部運営委員、全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)正会員、コンペティション審査員。桐朋学園大学非常勤講師。元日本合唱協会ピアニスト、松原混声合唱団ピアニスト。



□ピアニスト 中島 剛 (四大学合同ステージ)

東邦音楽大学を首席で卒業。第64回読売新人演奏会出演。1996年からハンガリー国立リスト音楽院に学ぶ。ウィーンでのピアノ・リサイタルなどを経て、2002年にウィーンを訪問された天皇后陛下の歓迎レセプションにて、ウィーンの若き音楽家の一人として紹介された。シャネル銀座のCHANEL NEXUS HALLにてCHANEL Pygmalion Days (2005年)、坂本龍一プロデュース「ロハス クラシック・コンサート2006」などへの参加をはじめ、多くのリサイタルを開催し常に好評を博している。また、ジョン・健・ヌッツォ、ウィーンフィル コンサートマスター ライナー・キュッヘル、ソプラノ 唐澤まゆ子、マリンバ 池上英樹、ソプラノ 柴田智子、ウィーンフィル トーマス・ヴィンクラット、神奈川フィル ソロコンサートマスター 石田泰尚の各氏などとの共演するほか、2008年には自身のファーストアルバム『SUMMER SKETCH』をリリース。日本各地での演奏活動のほか、「ショコラ ド マリア・カラス」では柴田智子氏、浅倉大介氏と共演。2013年よりバリトン 小松英典氏と共演の機会を得る。シューベルト『美しき水車小屋の乙女』全曲演奏をする。2012,13年森山良子Ryoko Classics ツアーにて共演。また、J-WAVE「ロハストーク」(2010年1月)に出演するなど多岐にわたって活動を展開。今後ますます期待される注目のアーティストである。現在、東邦音楽大学講師。

中島剛公式ウェブサイト <http://go-nakajima.com/>



□ ヴォイストレーナー 小貫 岩夫 (慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団・同志社グリークラブ・関西学院グリークラブ)

同志社大学及び大阪音楽大学卒業。文化庁オペラ研修所第11期修了。数々のコンクールで優勝、入選する。95年『魔笛』タミーノ役に抜擢され、テオ・アダムらと共演デビュー。翌年にはケムニッツ市立歌劇場（ドイツ）に同役で招聘出演し好評を得る。98年より文化庁派遣でミラノへ留学。2000年新国立劇場デビュー以来、二期会を中心に『鳴神』（市川團十郎演出）、『コジ・ファン・トゥッテ』（宮本亜門演出、文化庁芸術祭大賞受賞）などで活躍。また二期会公演『魔笛』（実相寺昭雄演出）には07年、10年と2回連続タミーノ役で出演し喝采を浴びた。近年は11年佐渡裕指揮『こうもり』アルフレード役のほか、13年から3年連続、二期会のオペレッタに主役で出演し演技力を発揮している。コンサートでは2011年、13年、15年にウィーンオペラ舞踏会管弦楽団のニューイヤーコンサートのソリストとして舞台を飾った。2013年、天皇皇后両陛下御親覧の舞踏会で演奏しお言葉を賜る。2018年7月、東京二期会『魔弾の射手』に主役マックスで出演した。二期会会員。二期会オペラ研修所講師。

2010年、カメラータ・トウキョウから『いつも微笑みを〜オペレッタ名曲集』をリリース。

2015年、FlyingDogよりリリースされたアルバム『ハナハサク』には、作曲者菅野よう子と共演した『花は咲く〜2015』が収められている。

2017月には2ndアルバム『ふたりのしらべ』をリリース。



□ ヴォイストレーナー 北村 敏則 (同志社グリークラブ)

京都市立芸術大学声楽専攻卒業。同大学院修了後ウィーン留学。音楽学部賞及び大学院賞を受賞。第2回日本シューベルト協会(J.S.G)国際歌曲コンクール第1位及び聴衆審査特別賞。第6回ボルツァーノ(北イタリア)歌曲コンクール第1位及びアダ・ヴェルバ賞受賞。第1回青山音楽賞。京都市芸術新人賞受賞。現在、堺市新人演奏会及び東京国際声楽コンクール審査員、関西二期会会員、日本シューベルト教会会員、京都市立芸術大学教授。



□ ヴォイストレーナー 大西 凌 (同志社グリークラブ)

京都市立芸術大学卒業。卒業時に卒業演奏会に出演。同大学大学院修士課程修了。オペラではモーツァルト「フィガロの結婚」フィガロ、バルトロ、「ドンジョバンニ」マゼット、騎士長、「コジ・ファン・トゥッテ」ドンアルフォンソ、「魔笛」ザラストロ、ビゼー「カルメン」スニガ、プッチーニ「ラ・ボエーム」コッリーネ、木下牧子「不思議の国のアリス」笑い猫などを演じる。宗教曲においては、フォーレ「レクイエム」、関西音楽大学オーケストラフェスティバルにてモーツァルト「レクイエム」のソリストを務める。声楽を小木谷好美、北村敏則の各氏に師事。



□ ヴォイストレーナー 和田ひでき (早稲田大学グリークラブ)

早稲田大学第一文学部卒。在学中はグリークラブに所属、パートリーダーを務めた。日本オペラ振興会育成部修了。オペラ出演は既に60作品を越え、最近の出演は、千住明「万葉集」カッチーニ「エウリディーチェ」（佐川吉男音楽賞受賞）マスネ「グリゼリデス」（三菱UFJ信託音楽奨励賞受賞）など。俳優としても、ミュージカル「恋娘近松合戦!」「夏火火♥恋名残」「Into the woods」ストラヴィンスキー「兵士の物語」兵士役、映画「亭主調理法」亭主役などで好評を博し、古楽からミュージカルまで、幅広いジャンルで活躍している。また仏語の字幕翻訳スタッフとしても活動、METライブビューイング、パリオペラ座来日公演をはじめ翻訳作品は40を越える。日本語訳詞も手掛け、ラヴェル「子供と魔法」の訳詞が小澤征爾指揮で上演された。その他仏語ディクショントラニングなど多彩な活動を展開している。2003年パリ留学。同年ガスコーニュ国際声楽コンクールオペラ部門ファイナリスト。



慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団

Keio University Wagner Society Male Choir

■部 長：池田幸弘
■顧問：福岡正夫、神谷傳造、山田太門、塩澤修平
■常任指揮者：佐藤正浩
■ヴォイストレーナー：小貫岩夫

ワグネル・ソサイエティーは、1901年に創立された慶應義塾の音楽団体です。その名称は、近代楽壇に一大生面を開いたリヒャルト・ワーグナーを敬慕してつけられたものであり、音楽学校以外ではわが国初の学生音楽団体として発足しました。そしてその一角を占めるのが、私ども慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団です。

アンサンブルにおいて一音の妥協も許さないという音楽に対する真摯な姿勢は、創立以来今日に至るまで脈々と受け継がれてきました。こうした日々の努力とそれに裏付けられた自信が、より高水準な音楽の追求を可能にしていると言えます。新入団員の多くが合唱経験を持たないという事実からも判断されるように、当団は常に自主性を尊重し、地道に自己鍛錬に励んでおります。1年生から4年生までが時にぶつかりながらも支え合い、一丸となって音楽を作り上げていくことで、合唱への更なる高みに挑戦しております。

現在の活動は、東京六大学合唱連盟定期演奏会・東西四大学合唱演奏会・単独の定期演奏会を柱に、塾内行事への参加、国内外の演奏旅行、企業やホテルなどからの依頼を受けての演奏など多岐にわたっております。従来のレパートリーを引き継ぐと同時に、新しい曲の開拓にも意欲的に取り組んでいるのも特徴です。

今後も、弛まぬ努力で最高品質の音楽を追求していく当団の活躍にご期待ください。

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
豊川 歩実 (経済4) 慶應志木	久保田 悠介 (理工4) 県立緑岡	兵藤 直哉 (文 4) 秀光中等教育学校	鶴岡航太郎 (薬 4) 渋谷教育学園幕張
☆別府 洸太 (法律4) 慶應義塾	春田 大智 (経済4) 開成	山田 和司 (文 4) 東京都市大付属	◎山内 祥平 (理工4) 県立湘南
香山 天俊 (文 3) 國學院久我山	○福田 侑生 (法律4) 慶應志木	横山 悠河 (商 4) 八千代松陰	山室 尚貴 (法律4) 慶應義塾
○南 祥悟 (経済3) 慶應志木	松本 翔 (政治4) 慶應志木	上林 由月 (経済3) 慶應志木	河村 拓 (経済3) 慶應志木
緑川 紀章 (経済3) 開成	菊地 敬 (理工3) 県立福島	城台 俊 (文 3) 慶應志木	菅沼 啓紀 (総合3) 県立熊谷
高橋 伽徳 (理工2) 県立松本深志	木暮 蒼真 (理工3) 慶應志木	○西田 有輝 (商 3) 洛星	長谷川広樹 (経済3) 桐光学園
藤巻 達郎 (理工2) 都立日比谷	鈴木 悠斗 (政治2) 慶應志木	蛭田 直希 (法律3) 慶應志木	竹中 悠 (理工2) 桐光学園
村田 浩輔 (政治2) 聖光学院	大類 裕介 (政治2) 慶應志木	篠崎 優人 (文 2) 芝	直井 瑠汰 (文 2) 県立浦和
小賀野 爽 (経済1) 県立浦和	新井 元矩 (文 1) 県立熊谷	田中 裕大 (理工2) 県立上田	藤井 雅裕 (経済2) 県立浦和
南 朔 (文 1) 県立浦和	小野 亜門 (経済1) 東京学芸大学附属	和田 太郎 (文 2) 慶應義塾	柴田 理来 (理工1) 桐光学園
三輪亮太郎 (政治1) 慶應志木		高崎 大智 (理工1) 都立日野台	
		松崎 太郎 (文 1) 県立川越	



同志社グリークラブ

Doshisha Glee Club



■顧問：岸 基史
■技術顧問：伊東恵司

■ヴォイストレーナー：北村敏則
小貫岩夫
大西 凌

同志社グリークラブは1904年に創立された同志社大学の男声合唱団です。先輩方をはじめ多くの関係者のご尽力により、このクラブは115年間、合唱界をリードする存在として常に輝いてきました。創立当時はまだ「同志社グリークラブ」という名称は使っておらず、「クワイア」、「ダビデ・クワイア」と称しておりましたが、1911年に故片桐哲氏（後の同志社女子大学第2代学長）を名付け親として、現在の名称で呼ばれるようになりました。その時に歌われていたのが讃美歌317番「はなよりもめでにし」であり、これが同志社グリークラブの名のもとに歌われた最初の曲とされています。それ以来音楽への情熱を貫き、「椰子の実」の作曲者として知られる故大中寅二氏、音楽評論家の故日下部吉彦氏、合唱指揮者の浅井敬壹氏など数多くの優れた音楽家を輩出して参りました。

2019年現在、東西四大学合唱演奏会、クリスマス・イヴに行う全同志社メサイア演奏会、一年の集大成である定期演奏会を中心として、全日本合唱コンクール、国内外への演奏旅行、テレビ出演等、多岐にわたって活動しています。このような幅広い活動ができますのも、私達の活躍に期待を寄せてくださる多くの方々のご支援の賜物にほかなりません。今後とも私たちは、100年以上の間大切に受け継がれて参りました「聴衆と一体となった音楽」という同志社グリークラブの精神を失うことなく、常に挑戦する合唱団として、より一層邁進して参ります。

TOP TENOR

- 濱田 尚晃（社会4）東大谷
- 川崎 克之（社会4）磐田西
- 佐藤 宏樹（法 4）清風
- 古川 智也（文 3）諏訪清陵
- 吉本 泰（経済3）高崎
- 片平 颯太（心理2）函館ラ・サール
- 松水 智弥（法 2）金光八尾
- 上村 裕輝（法 1）新田青雲

SECOND TENOR

- 犬丸 和音（社会4）初芝富田林
- ◎村津 耕平（理工4）開明
- 西堂 哲史（理工4）須磨学園
- 高橋 侑資（理工4）豊田西
- 松田 耕明（文 3）高志
- 江黒 文平（文情2）名古屋
- 飯田 淳史（法 2）東山
- 池上 裕（理工2）近大付属和歌山
- 和田島幸星（商 2）宇都フロンティア大学付属香川
- 西村 拓真（文 1）京都精華学園
- ムラヴィッチ イリヤ（文 1）日本大学第二

BARITONE

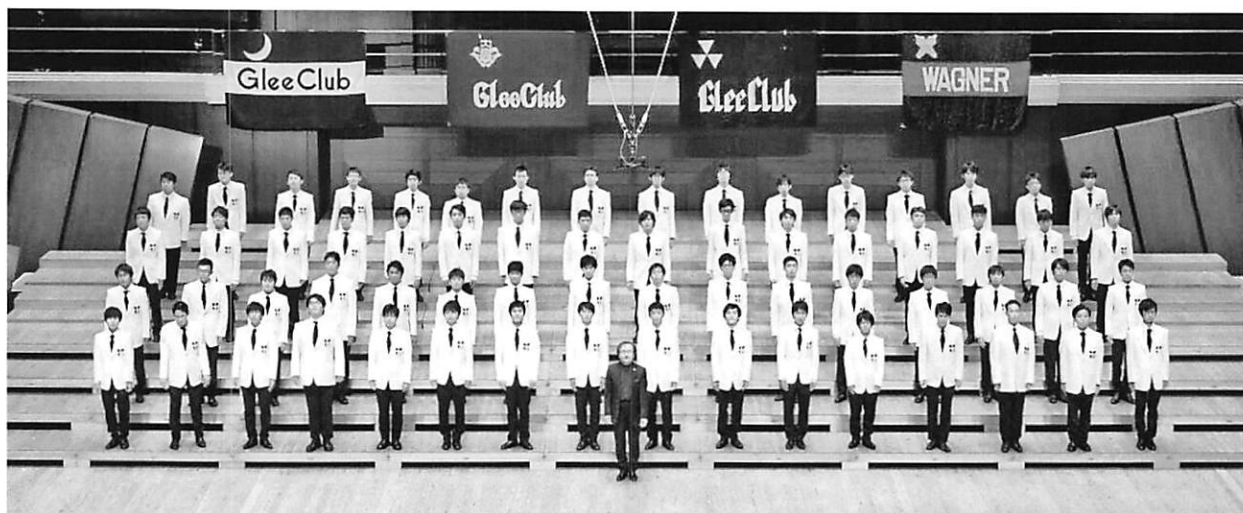
- ☆井出 輝（経済4）熊谷
- 磯部隆之介（理工4）浜松学芸
- 小倉 寛大（文 3）所沢北
- 奥野 真（法 3）浪速
- 巖 子焜（社会2）広州市第二
- 市川 雄大（経済2）常総学院
- 山内 元太（社会2）津島東
- 沖山 竜也（政策1）川越東

BASS

- 細田 純也（社会4）魚津
- 臼井 直樹（理工4）大野
- 佐藤 諒一（理工3）同志社国際
- 塚越 健（理工3）同志社国際
- 上原 拓巳（政策3）富士
- 藤尾 快（商 2）小野
- 真鍋 知浩（理工2）清風
- 出口 航至（生医1）広島国泰寺

MANAGER

- 井上 澪（社会2）稲毛
- 落合 里菜（社会2）初芝富田林
- 安元明日香（社会2）同志社女子
- 吉田 彩乃（社会2）京都八幡



関西学院グリークラブ

Kwansei Gakuin Glee Club



■顧問：嶺重 淑

■技術顧問：広瀬康夫

■副顧問：矢橋 洋

■運営顧問：中村 翔

■ヴォイストレーナー：小貫岩夫

関西学院グリークラブは、関西学院創立から10年後の1899（明治32）年、神戸市郊外の新田の森（現在の王子公園付近）に誕生し以来、現在まで120年間にわたり活動を継続している日本で最も長い歴史を持つ男声合唱団です。音楽家の山田耕筈、林雄一郎、北村協一をはじめ、経済界にも多くの著名な人材を輩出しています。

コンクールにおいては戦前の競演会を含め1963年までに全国大会に18回出場、招待演奏2回など輝かしい実績を残しました。2018年度までの13年間で全国大会に12回出場し、9年連続の金賞を受賞するなど、常に日本の合唱界をリードし続けています。

時代とともに学生の気質は変化する一方、その長い歴史の中で受け継がれてきたものが、クラブモットーである「メンタルハーモニー」です。部員一人ひとりの精神的調和を目指すことで生まれる独自のハーモニーは「関学トーン」と呼ばれ、今日に至ってもなお、多くの人々に愛されています。その精神を柱に、限られた時間の中で一つひとつの演奏会に真摯に取り組み、関西学院グリークラブの歴史に新しいページを作り上げるべく、日々不断の努力を重ねています。

TOP TENOR

上本 樹 (文) 4) 関西学院
○阪本 知弥 (教) 4) 関西学院
□高安 亮太 (文) 4) 関西学院
内藤 敬太 (経) 4) 清風
野田 脩介 (理) 4) 関西学院
八幡 佳介 (経) 4) 米子東
鄭 結月 (国) 3) 臺中第一
前田 翔輔 (教) 3) 関西学院
森 悠輔 (文) 3) 京都共栄学園
渡邊 岳 (文) 3) 向陽
磯野 信吾 (法) 2) 関西学院
金田 秀崇 (社) 2) 関西学院
貞徳 真伸 (文) 2) 福岡大学附属大濠
松田圭一郎 (文) 2) 済美

SECOND TENOR

稲垣 大志 (経) 4) 関西学院
○大谷 俊太 (理) 4) 関西学院
秦 芳樹 (商) 4) 関西学院
福田 幸大 (経) 4) 米子東
船登 大輝 (社) 4) 嵯峨野
阿部 竜也 (社) 3) 徳島文理
寺嶋 理裕 (商) 3) 八千代松陰
西田 智徳 (理) 3) 雲雀丘学園
西原 豊 (文) 3) 岡山操山
東 颯介 (文) 3) 関西学院
川人 元紀 (文) 2) 三田祥雲館
齋木 大輔 (経) 2) 米子西
八木 晴希 (総) 2) 関西女子
坂尾 謙 (商) 1) 関西学院

BARITONE

◎石川 龍太 (社) 4) 敬和学園
今村 駿平 (文) 4) 松山東
野田純之介 (理) 4) 関西学院
○堀堀 克仁 (経) 4) 関西学院
新 広大 (法) 3) 大洲
安藤 颯 (文) 3) 啓明学院
金田 昌大 (神) 3) 自由ヶ丘
渋谷 勇紀 (経) 3) 須磨学園
西口 知宏 (文) 3) 広島工業大学
石原 弘規 (経) 2) 渋谷教育学園渋谷
藤井 大朗 (文) 2) 大手前丸亀
大谷 健人 (理) 1) 関西学院
森川 拓馬 (人) 1) 伊奈学園総合

BASS

○久保 直輝 (文) 4) 関西学院
☆林 浩平 (経) 4) 仁川学院
松本 陸 (経) 4) 駒込
山田 航大 (商) 4) 関西学院
天野 大助 (国) 3) 西宮南
門野 律 (経) 3) 大手前
田島淳之介 (文) 3) 明治学院
徳島 良亮 (経) 3) 関西学院
中川 開渡 (国) 3) 龍野
小林 晃 (経) 2) 愛知
橋爪 正彦 (人) 2) 函館ラサール
平見 佳久 (教) 2) 関西学院
船本 洸 (文) 2) 報徳学園
石塚龍太郎 (経) 1) 関西学院
尾崎 颯 (文) 1) 関西学院

☆：部長 ◎：学生指揮者
□：人事 ○：パートリーダー

MANAGER

木下史季子 (文) 4) 西南女学院
佐藤 美優 (社) 4) 西南女学院
塩谷 志織 (教) 4) 帝塚山学院
清水 梨那 (社) 4) 帝塚山
竹村 朱莉 (社) 4) 神戸龍谷

鳥越 みき (社) 4) 長田
兵頭ひより (教) 4) 宇和島南
渡名喜菜唯 (社) 3) 昭和薬科大学附属
湯 楓華 (文) 3) 親和女子
丹羽 美智 (文) 3) 小林聖心女子学院

吉野 碧 (文) 3) 大阪聖母女学院
清水 満帆 (文) 2) 関西学院
樽井 志歩 (教) 2) 松蔭
寺尾 夏花 (文) 2) 帝塚山学院
中平 風映 (教) 2) 平城

樋口 木蘭 (文) 2) 帝塚山
和田 梨里 (文) 2) 帝塚山学院



早稲田大学グリークラブ

Waseda University Glee Club



■顧問 長崎潤一

■ヴォイストレーナー：和田ひでき

早稲田大学グリークラブは早稲田大学音楽会の声楽部として活動を開始し、1907年（明治40年）に、早稲田大学の創立25周年を記念して作られた校歌、通称「都の西北」と共に、初代グリークラブが結成されました。

創立112年を迎える今日に至るまで校歌を歌い続け、早稲田大学と共に歩いてまいりました。伝統ある男声合唱団として活動し、音楽界で活躍する多くのOBを輩出してきました。

現在でも約70名の団員が在籍しており、1年間で4回の演奏会を行い、様々な地域に演奏旅行を行なっております。また大学の行事や、小・中・高校へも赴き男声合唱の魅力を伝える活動をしております。

国内外の男声合唱作品のみならず、学歌から民謡、ポップスまで幅広いジャンルの曲目を演奏しております。また委嘱活動も積極的に行っており、様々な作曲家の先生や早稲田大学の卒業生で悪魔教団「聖飢魔Ⅱ」の主宰であるデーモン閣下、ミュージシャンの小田和正氏にも曲を手がけていただいております。

早稲田大学グリークラブが目指すもの、それは男声合唱による単なる素晴らしい演奏ではありません。男声合唱というメディアを通して行う「究極のエンターテインメント」であります。数字や実績など目に見える功績や結果がわかりやすい価値観として愛されるようになった現代日本で、「男なら歌え 早稲田を歌え」という旗本に集まった男達によるエンターテインメントがどのような意味を持つのか。皆様の目で確かめていただきたく存じます。

TOP TENOR

○小池 功託（人科4）埼玉県立熊谷
高橋 初文（社会学4）香川県立丸亀
高橋 優介（政経3）都立八王子東
田嶋 充晴（政経3）早稲田大学本庄
深海 祐輝（基理3）早稲田大学高等学院
増淵 智光（商3）栃木県立宇都宮
矢島 隆弘（政経3）早稲田大学高等学院
山田 雄介（教育3）早稲田大学本庄
河野 元就（社会学2）早稲田実業
奚 佳亮（教育2）埼玉県立川越
佐藤 健人（文2）埼玉県立川越

SECOND TENOR

井口 純太（文4）金光八尾
今尾 一樹（先理4）東海
神頭 和希（社会学4）富山県立富山南
野口 朔（政経4）都立武蔵
○吉岡 和輝（社会学4）城北
坂木 朝（教育3）都立富士
杉原 雅弥（文3）芝
浪江 泰誠（スポ科3）西武学園文理
南 雄太（文構3）愛知県立刈谷
宮本 陽司（先理3）茨城県立竹園
村上 元基（教育3）早稲田大学本庄
桐原 涼（創理2）静岡県立荏山
齋藤 泰晟（教育2）栃木県立宇都宮
武山 開（商2）早稲田
吉原 昌幸（先理2）都立西

BARITONE

遠田 雄大（先理4）茨城県立水戸第一
○萩原 颯（文構4）巣鴨
増田 旭晃（基理4）日本大学鶴ヶ丘
森田遼太郎（創理4）成城
◎横野奏士郎（文構4）北海道旭川東
稲村 翔（先理3）神奈川県立横浜緑ヶ丘
濱島 泰文（法3）都立日比谷
森 拓海（政経3）都立豊多摩
山本 悠（文構3）錦城
小林龍之介（文構2）早稲田大学高等学院
杉山 隆人（基理2）早稲田
曾根 琉輝（文構2）神戸市立葺合
武井 謙（文2）都立国際
平野 裕哉（先理2）岐阜県立岐阜
深澤 康介（先理2）都立両国
増田 納央（文構2）埼玉県立熊谷

BASS

○岩永康太郎（文構4）池田学園池田
内山 和哉（基理4）武蔵
☆澤田 和希（商4）神奈川県立横浜緑ヶ丘
金子 健悟（文3）早稲田大学本庄
鈴木 直（教育3）埼玉県立熊谷
田爪創太郎（文3）明治学園
床坊 太郎（法3）石川県立金沢泉丘
大野 柊（創理2）早稲田大学高等学院
小泉 悠登（政経2）早稲田大学本庄
長嶋 樹（文2）昌平

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団

2019年

10/13(日)

WAGNER FEST 2019

(慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団)

(慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団)

(慶應義塾志木高等学校ワグネル・ソサィエティー男声合唱団)

すみだトリフォニーホール 大ホール

12月15日(日)

第144回定期演奏会

(慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団)

東京芸術劇場コンサートホール

同志社グリークラブ

2019年

8/21(水)

第25回同立交歓演奏会

同志社大学寒梅館ハーディーホール

12/21(土)

第55回全同志社メサイア演奏会

京都コンサートホール大ホール

2020年

2/16(日)

第115回同志社グリークラブ定期演奏会

京都コンサートホール大ホール

2/29(土)

第115期卒団生のためのフェアウェルコンサート

同志社大学寒梅館ハーディーホール

関西学院グリークラブ

2019年

9/29(日)

関西学院グリークラブ120周年記念フェスティバル
関西学院中央講堂

11/23(土)

第72回全日本合唱コンクール全国大会
ロームシアター京都

12/21(土)

関西学院グリークラブ 第28回高槻コンサート
高槻現代劇場 中ホール

2020年

2/8(土)

120周年記念 第88回関西学院グリークラブリサイタル(東京公演)
すみだトリフォニーホール 大ホール

2/23(日)

120周年記念 第88回関西学院グリークラブリサイタル(兵庫公演)
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

早稲田大学グリークラブ

2019年

12月7日(土)

第67回定期演奏会

東京芸術劇場 コンサートホール

1st Stage

男声合唱組曲「永久ニ」 指揮:横野 奏士郎(学生)

2nd Stage

青島広志プロデュースステージ 出演:青島 広志(客演)

3rd Stage

三宅悠太新作委嘱初演 指揮:相澤 直人(客演)

編集後記

この度はすみだトリフォニーホールまで足をお運びいただき、誠にありがとうございます。皆様のおかげで、東西四大学合唱演奏会も第68回を迎えることができました。

今回の演奏会でも各団の趣向を凝らした単独ステージや、四大学でお送りする合同ステージをお送りいたします。本稿が、皆様が本演奏会をより楽しむための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本パンフレットの制作に協力していただいた皆様、並びに今日までしていただいた、諸先生、諸関係者の皆様、そして本日ご来場してくださった皆様に厚く御礼申し上げます。

第68回東西四大学合唱連盟 理事長
早稲田大学グリークラブ 井口純太

四連マネージャー



四連マネージャー 春 (慶應：春田大智)

本日はご来場誠にありがとうございます。

今年も無事に東西四連が開催できること、大変嬉しく思います。四大学が切磋琢磨し、各々の意地をぶつけ合うこの演奏会が僕はとても好きです。

皆様にも是非最後までお楽しみいただければと思います。

四連マネージャー 夏 (同志社：細田純也)

ごめん、同級会にはいけません。今、錦糸町にいます。この国を東西に縦断する演奏会を、私たちは作っています。………本当は、あの頃が恋しいけれど、でも今はもう少しだけ、知らないふりをします。私たちの作る四連も、きっといつか誰かの青春を乗せるから。



四連マネージャー 秋 (関学：福田幸大)

多くの方のご支援をいただき、今年も東西四連が開催されることを嬉しく思います。伝統の上に胡坐をかくのではなく、四大学の誇りと尊敬が交わる場としてレベルアップし続ける演奏会にしていきたいと思い準備に取り組んできました。

単独、合同ステージとも充実した演奏をお届けいたしますので、本日は最後までお楽しみください。

四連マネージャー 冬 (早稲田：井口純太)

本日は演奏会にお越しいただき、誠にありがとうございます。

今年も様々な方の多大なご支援によって東西四大学合唱演奏会を開催することができ、大変嬉しく存じます。単独ステージだけでなく、合同ステージも精一杯練習して参りましたので、是非最後までお聞きください。



来年の公演情報

第69回東西四大学合唱演奏会

日時 2020年6月28日(日)

会場 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

第68回東西四大学合唱演奏会 プログラム

2019年6月22日(土)
すみだトリフォニーホール 大ホール

令和元年6月22日発行

主催 催：東西四大学合唱連盟
印刷 刷：株式会社 山川印刷所

第 68 回
東西四大学合唱演奏会